

令和3年度
青少年の健全育成に関する
意識調査結果

概要版

【調査概要】

- 目的： 青少年健全育成に関する県民の意識や行動について調査を行い、現状の県民意識や行政に対するニーズを把握すると共に、今後の青少年の健全育成の基礎資料を得ることを目的とする。
- 対象者： 岩手県内に居住する少年(中学生・義務教育学校後期課程の生徒・高校生)500人とその保護者500人及び、満20歳から39歳の青年1500人
- 調査時期： 令和3年10～12月
- 回収状況： 少年488人(回収率97.6%)、保護者488人(97.6%)、青年430人(28.7%)

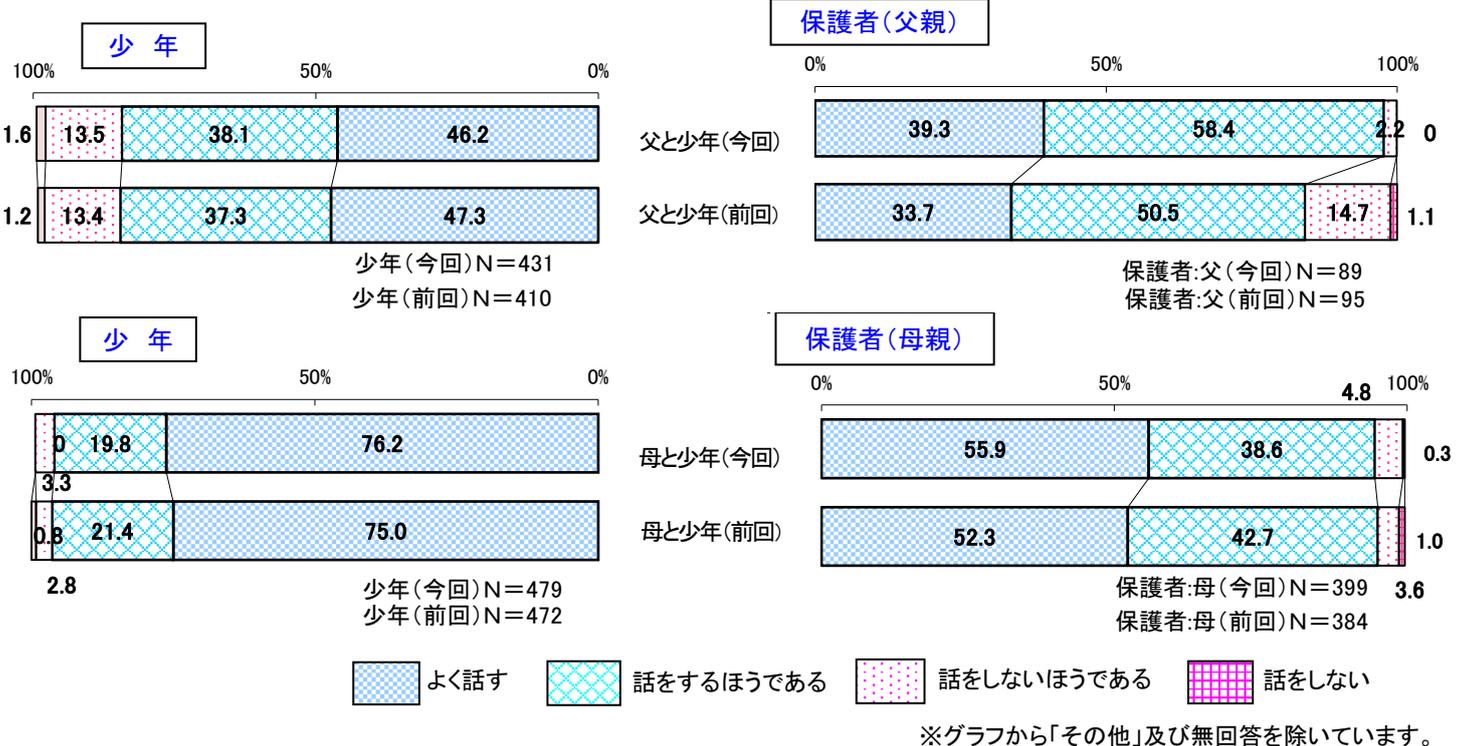
※各グラフの「N=」は、質問に対する有効回答数です。

I 親子の関係

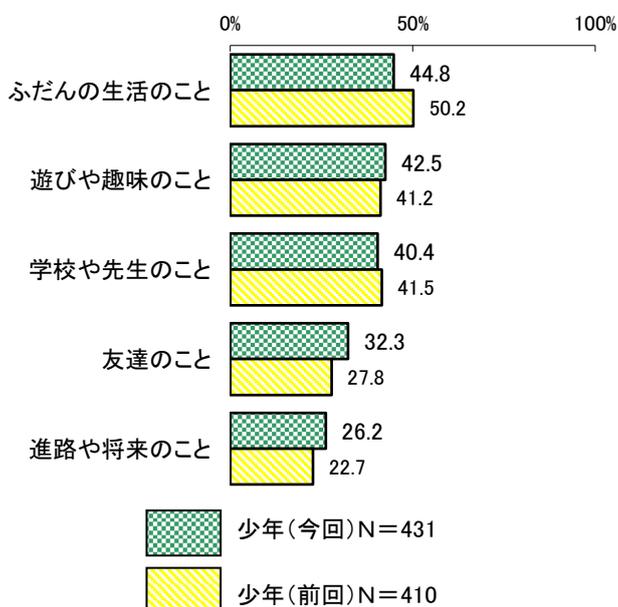
1 親子の会話

◎ 少年は父親、母親ともよく話をしています。

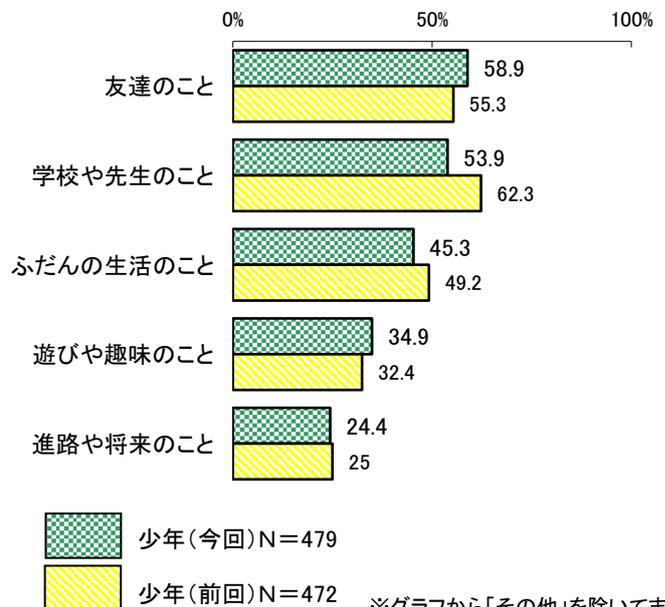
少年は保護者(父親、母親)と「よく話す」「話をするほうである」と回答した割合が8割を超えています。前回調査と比較すると、子どもと「よく話す」「話をするほうである」と回答した保護者(父親)は増加しています。また、少年が父親と会話する内容では「ふだんの生活のこと」「遊びや趣味のこと」と回答した割合が多く、母親とは「友達のこと」「学校や先生のこと」と回答した割合が多くなっています。



父親との会話の内容(少年)上位5項目



母親との会話の内容(少年)上位5項目



2 親子の相互理解

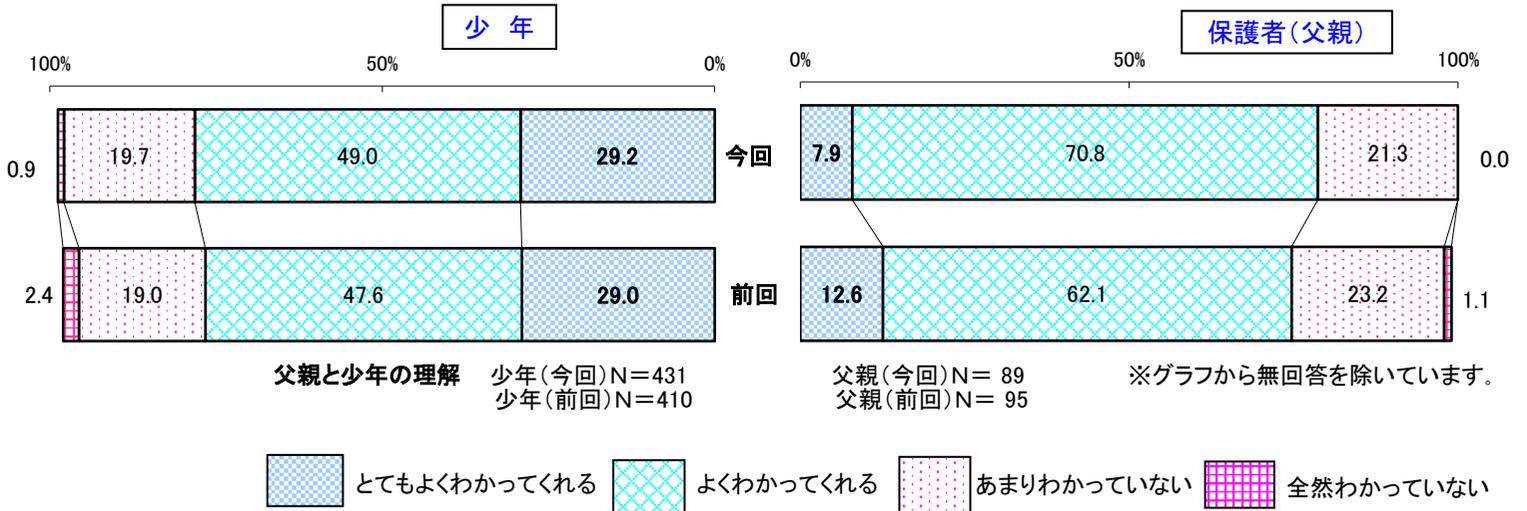
◎ 親子の相互理解が深まっています。

父親が「とてもよくわかってくれる」「よくわかってくれる」と回答した少年は78.2%、母親が「とてもよくわかってくれる」「よくわかってくれる」と回答した少年は91.2%です。

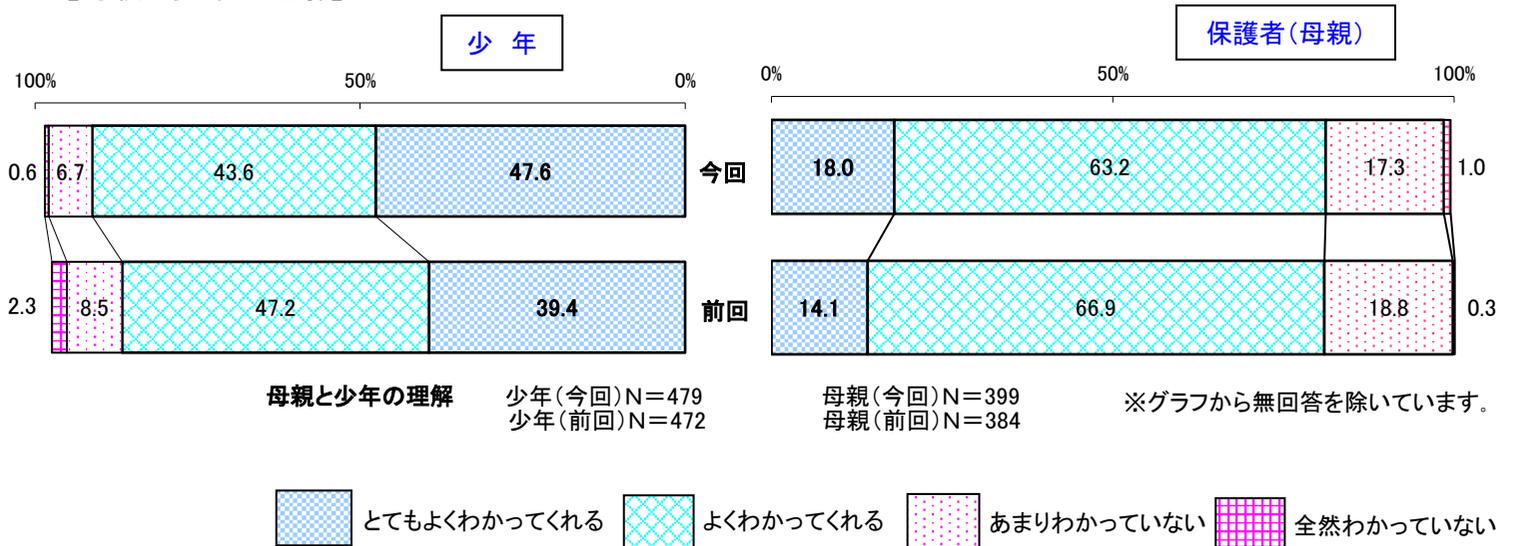
前回調査と比較すると保護者（父親、母親）が「とてもよくわかってくれる」「よくわかってくれる」と回答した少年の割合は増加しています。

また、少年が「とてもよくわかってくれる」「よくわかってくれる」と回答した保護者（父親、母親）の割合も増加しています。

【父親と少年の理解】



【母親と少年の理解】



Ⅱ 青少年の悩み

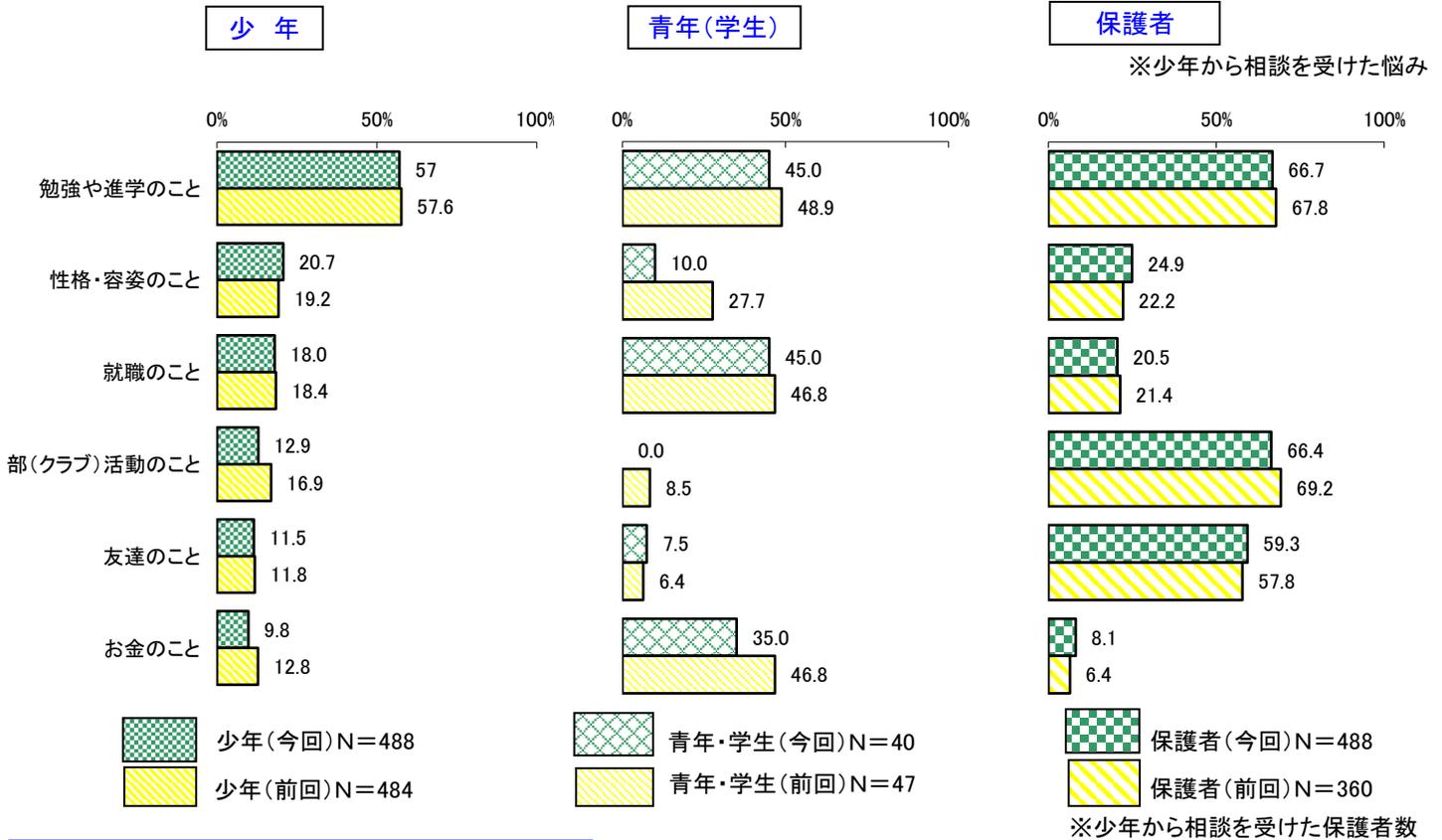
1 青少年の悩み(複数回答)

◎ 少年、青年(学生)の悩みは「勉強や進学」です。

少年の悩みは「勉強や進学のこと」と回答した割合が5割を超えています。前回調査と比較すると、「部(クラブ)活動のこと」「お金のこと」と回答した割合が減少しています。

青年(学生)の悩みは「勉強や進学のこと」「就職のこと」と回答した割合が多くなっています。前回調査と比較すると、「性格・容姿のこと」「お金のこと」と回答した割合が減少しています。

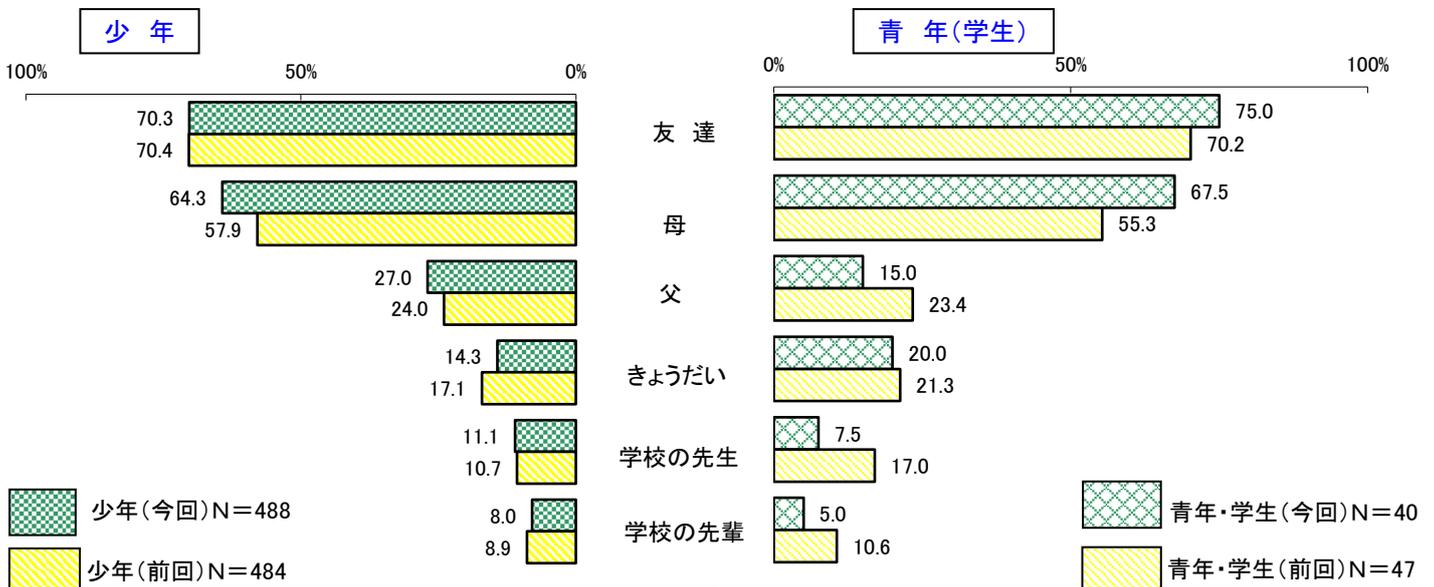
保護者が少年から相談を受けた悩みは、「勉強や進学のこと」「部(クラブ)活動のこと」「友達のこと」と回答した割合が多くなっています。



2 悩みごとの相談相手(複数回答)

◎ 少年も青年(学生)も、「友達」と「母」が相談相手です。

少年、青年ともに、「友達」「母」と回答した割合が多くなっています。前回調査と比較すると、少年、青年ともに、「母」と回答した割合が増加しています。



Ⅲ 青少年の夢や希望

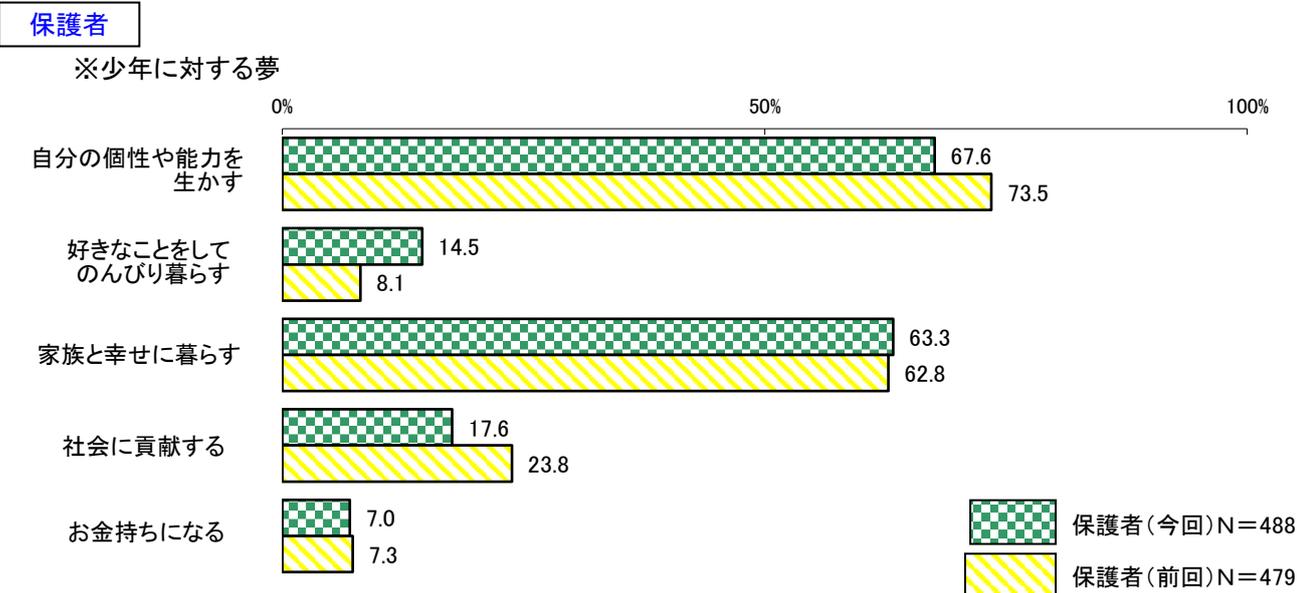
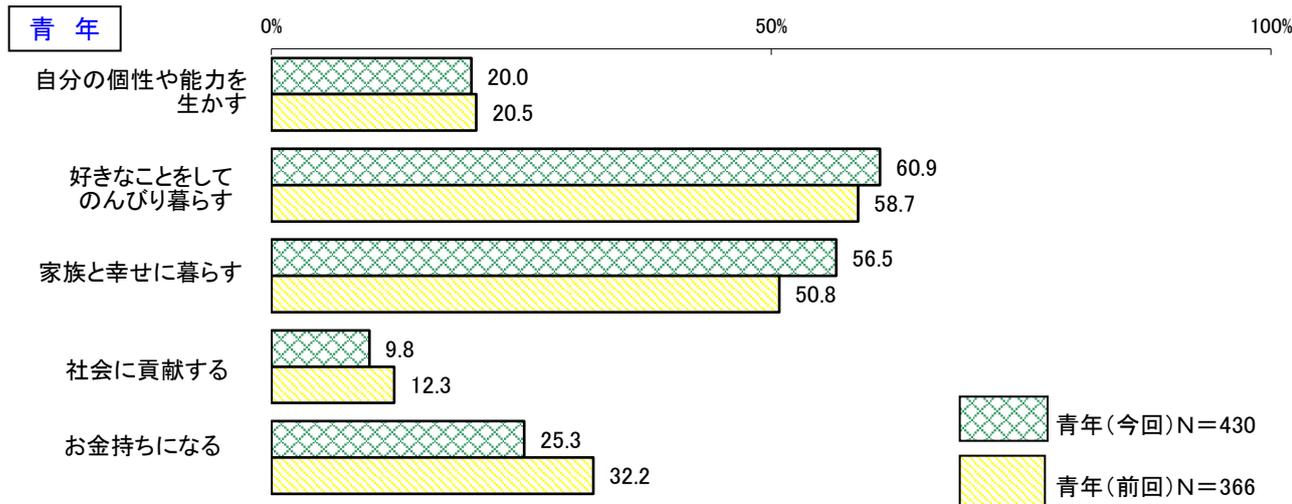
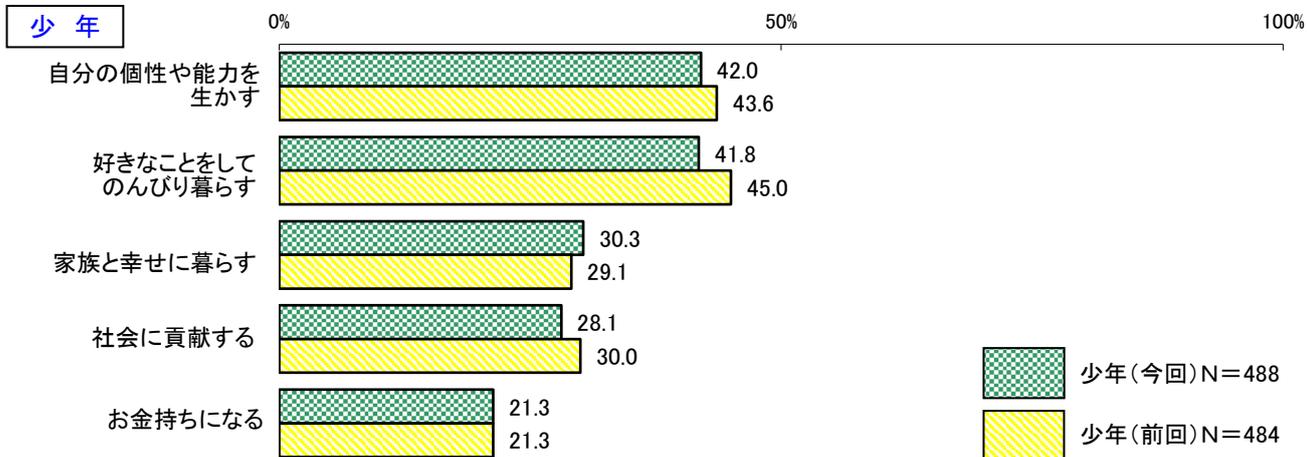
1 将来の夢(複数回答)

◎ 少年は「自分の個性や能力を生かす」「好きなことをしてのんびり暮らす」ことが将来の夢です。

少年は「自分の個性や能力を生かす」「好きなことをしてのんびり暮らす」と回答した割合が多くなっています。前回調査と比較すると、「家族と幸せに暮らす」と回答した割合が1.9ポイント増加しています。

青年は「好きなことをしてのんびり暮らす」「家族と幸せに暮らす」と回答した割合が多くなっています。前回調査と比較すると、「家族と幸せに暮らす」と回答した割合が5.7ポイント増加し、「お金持ちになる」と回答した割合が6.9ポイント減少しています。

保護者は「自分(少年)の個性や能力を生かす」「家族と幸せに暮らす」と回答した割合が多くなっています。

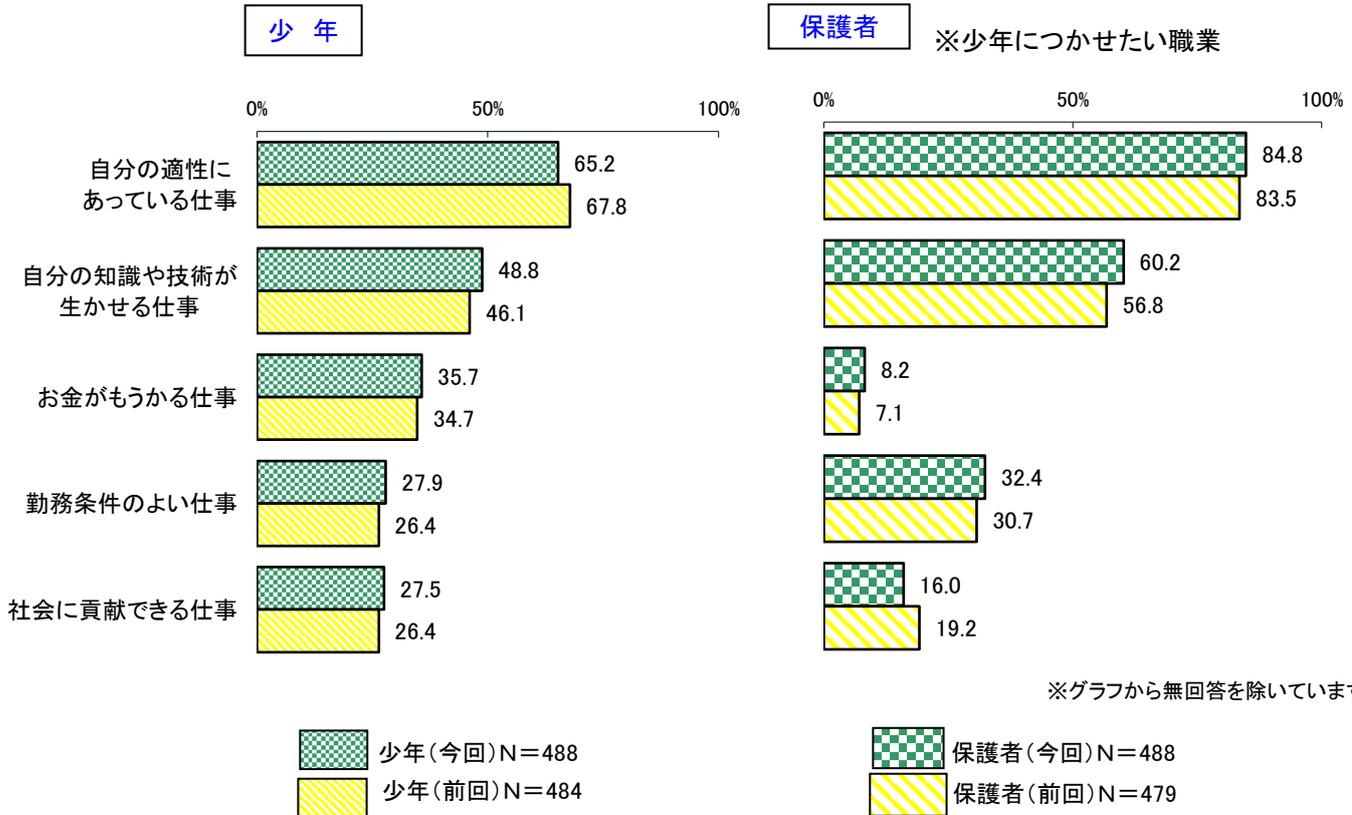


2 将来の職業

◎ 「自分の適性にあっている仕事」「自分の知識や技術が生かせる仕事」につきたいと考えています。

少年、保護者ともに「自分（少年）の適性にあっている仕事」「自分（少年）の知識や技術が生かせる仕事」と回答した割合が多くなっています。

「お金のもうかる仕事」と回答した少年は3割を超えています、保護者は1割未満となっています。

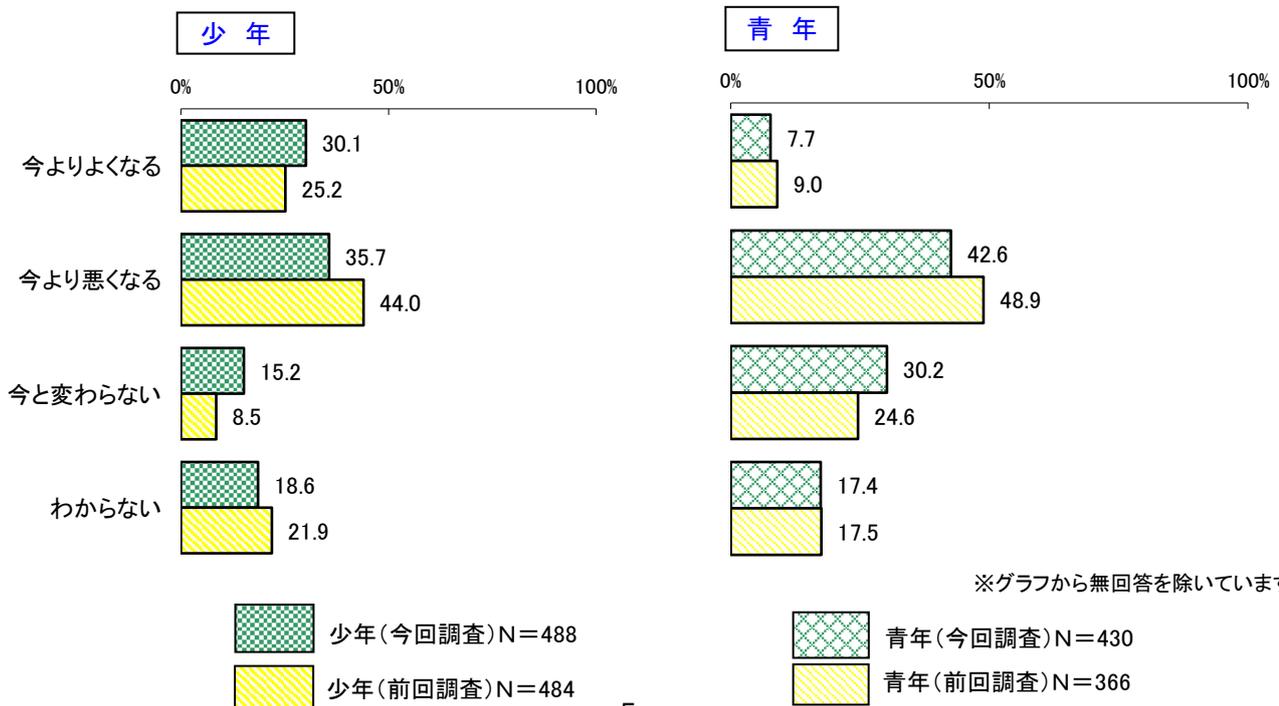


3 10年後の社会

◎ 10年後の社会は「今より悪くなる」と考える青少年が多いですが、割合は減少しています。

少年は「今よりよくなる」との回答が30.1%、「今より悪くなる」との回答が35.7%で、「今より悪くなる」との回答が、「今よりよくなる」との回答を上回っています。

青年も「今よりよくなる」との回答が7.7%、「今より悪くなる」との回答が42.6%で、「今より悪くなる」との回答が、「今よりよくなる」との回答を上回っています。

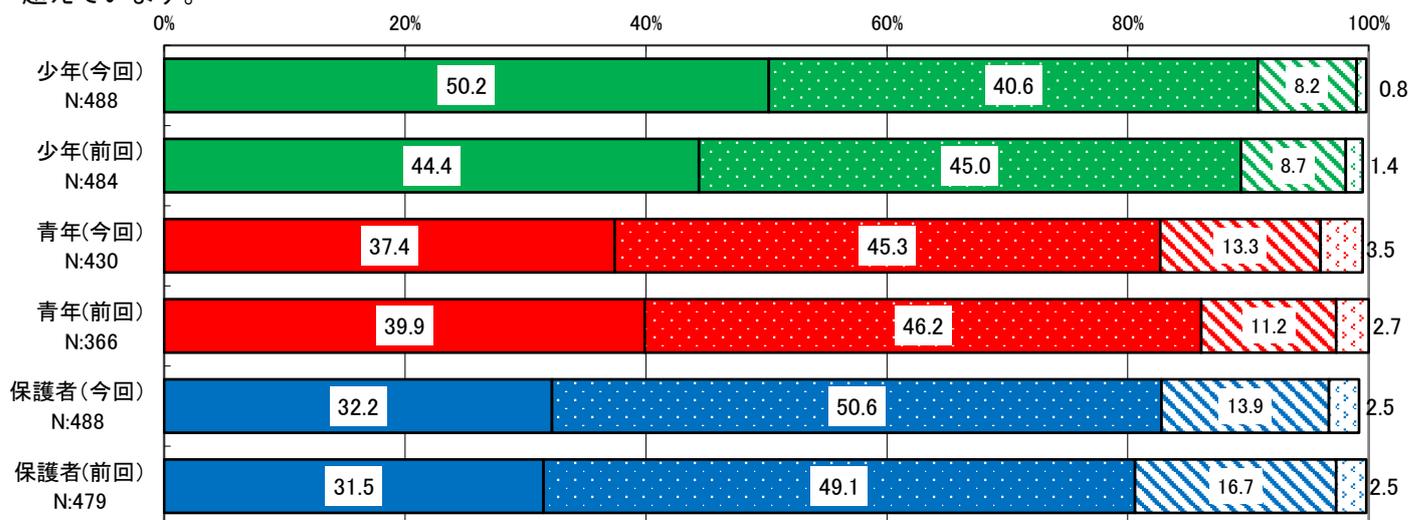


IV 地域への愛着

1 住んでいる地域への愛着

◎ 8割以上が「地域が好き」と回答しています。

少年、青年、保護者ともに住んでいる地域が「好き」または「どちらかといえば好き」と回答している割合が8割を超えています。



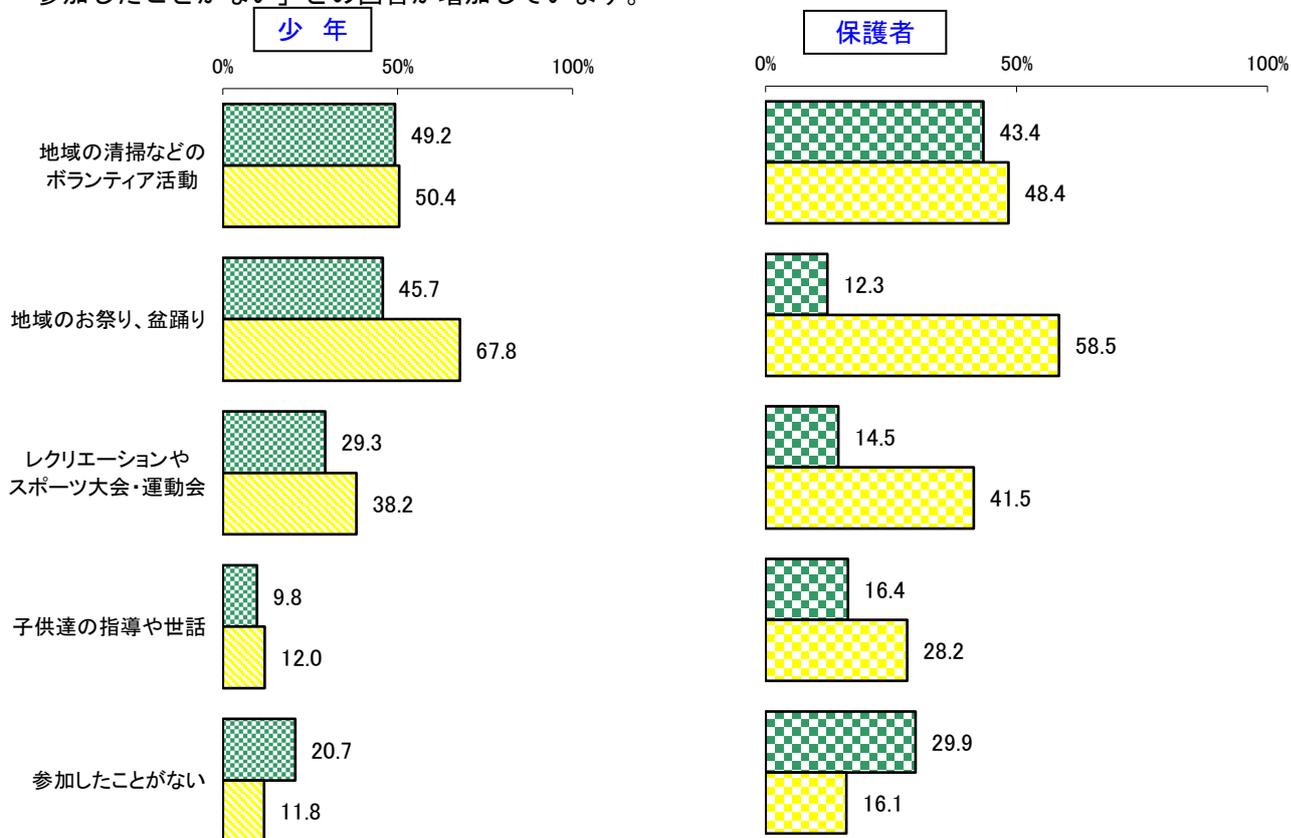
※グラフから無回答を除いています。



2 住んでいる地域・地域活動への参加

◎ 地域活動に参加したことがない少年が増加しています。

少年、保護者ともに「地域の清掃などのボランティア活動」と回答した割合が多くなっています。前回調査と比較すると少年、保護者ともに「地域のお祭り、盆踊り」「レクリエーションやスポーツ大会・運動会」と回答した割合は減少し、「参加したことがない」との回答が増加しています。



※グラフから「その他」と無回答を除いています。

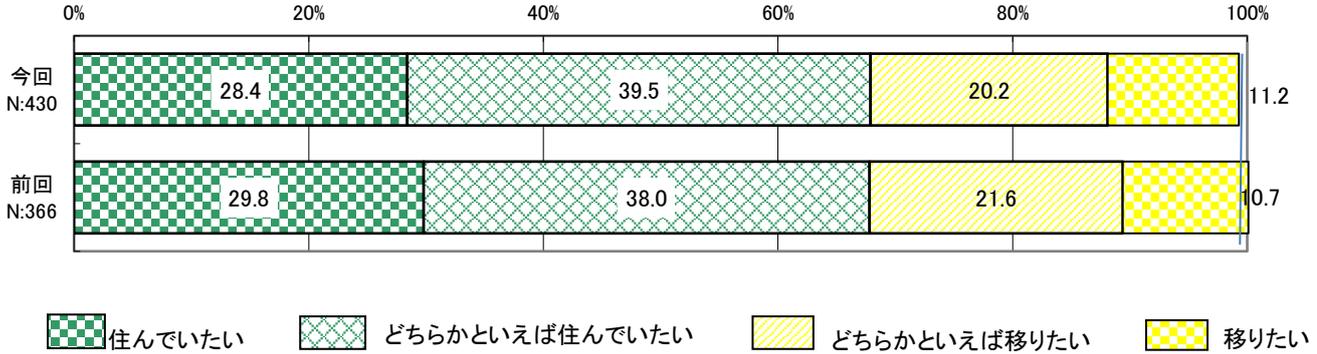


3 将来の居住地

◎ 6割以上の青年が今の地域に「住んでいたい」「どちらかといえば住んでいたい」と回答しています。

将来もずっと今の地域に「住んでいたい」「どちらかといえば住んでいたい」と回答した青年が6割を超えています。

青年

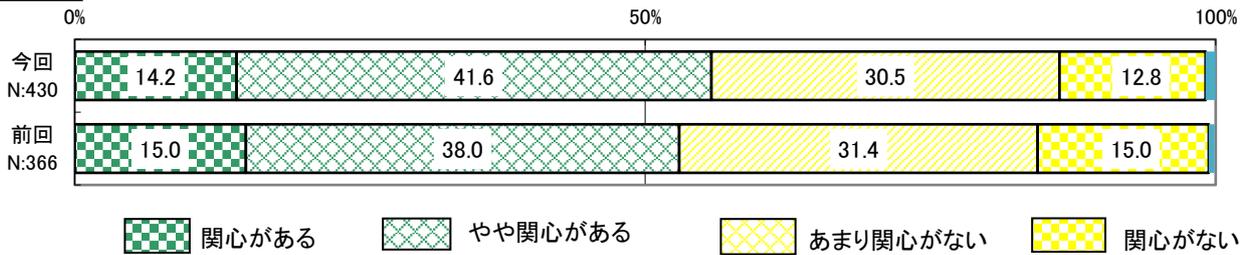


4 青年の活動

◎ 5割以上青年が、若者が企画するプロジェクトへの参加に関心を示しています。

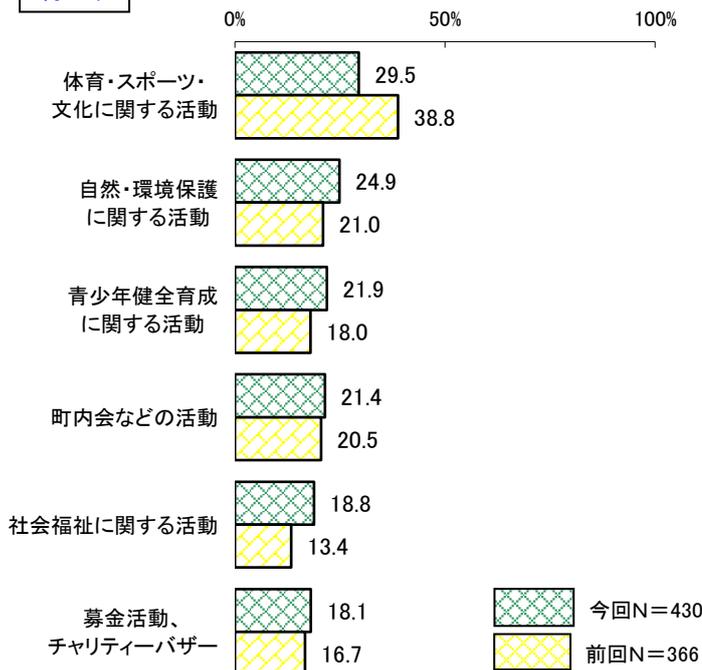
若者が企画するプロジェクトに参加することへの関心

青年



参加したことがある活動

青年



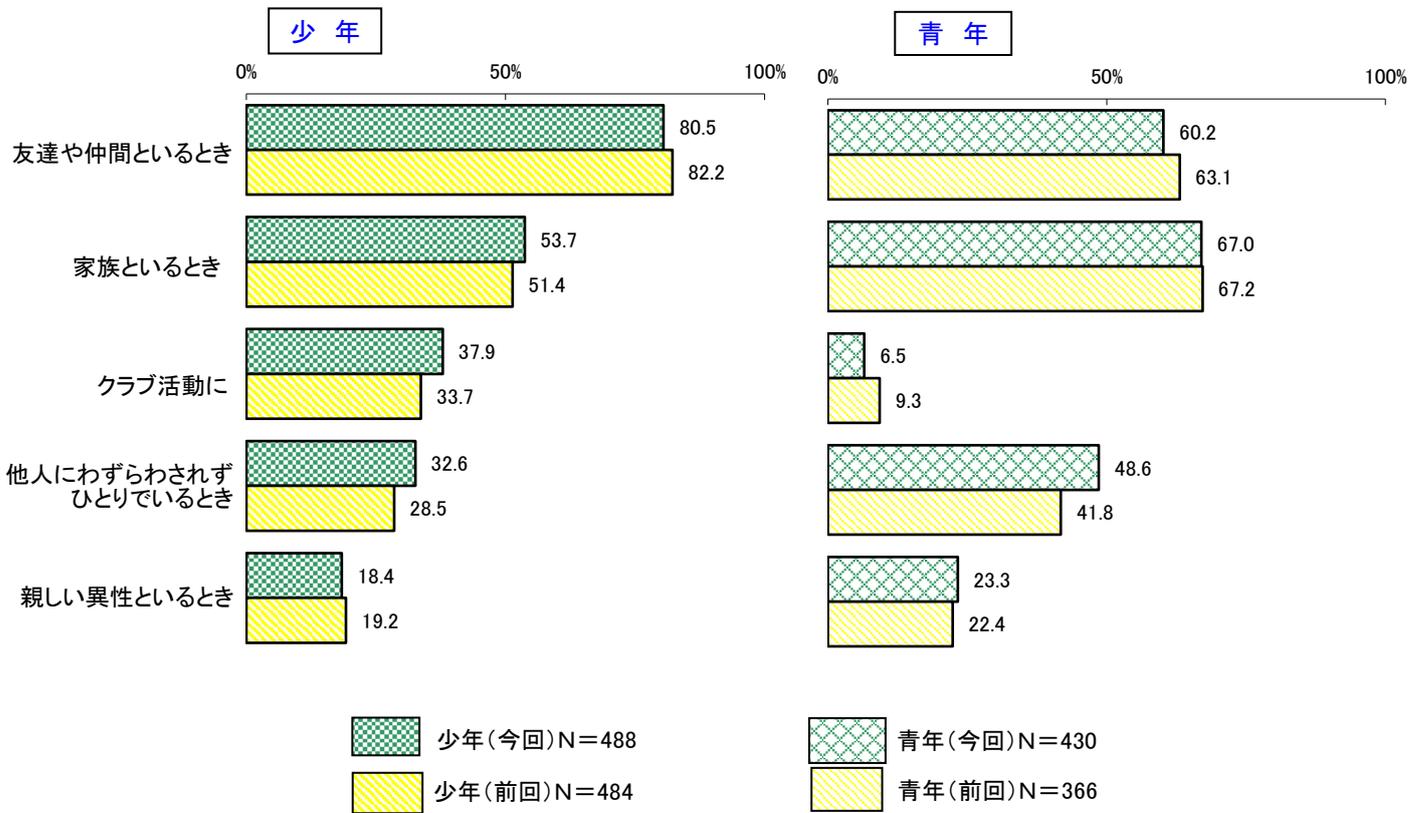
若者が企画するプロジェクトに参加することへ「関心がある」と「やや関心がある」と回答した割合が5割を超えています。

参加したことがある活動では「体育・スポーツ・文化に関する活動」「自然・環境保護に関する活動」「青少年健全育成に関する活動」と回答した割合が多くなっています。

1 幸せを感じる時(複数回答)

◎ 青少年は「友達や仲間といるとき」「家族といるとき」に幸せを感じています。

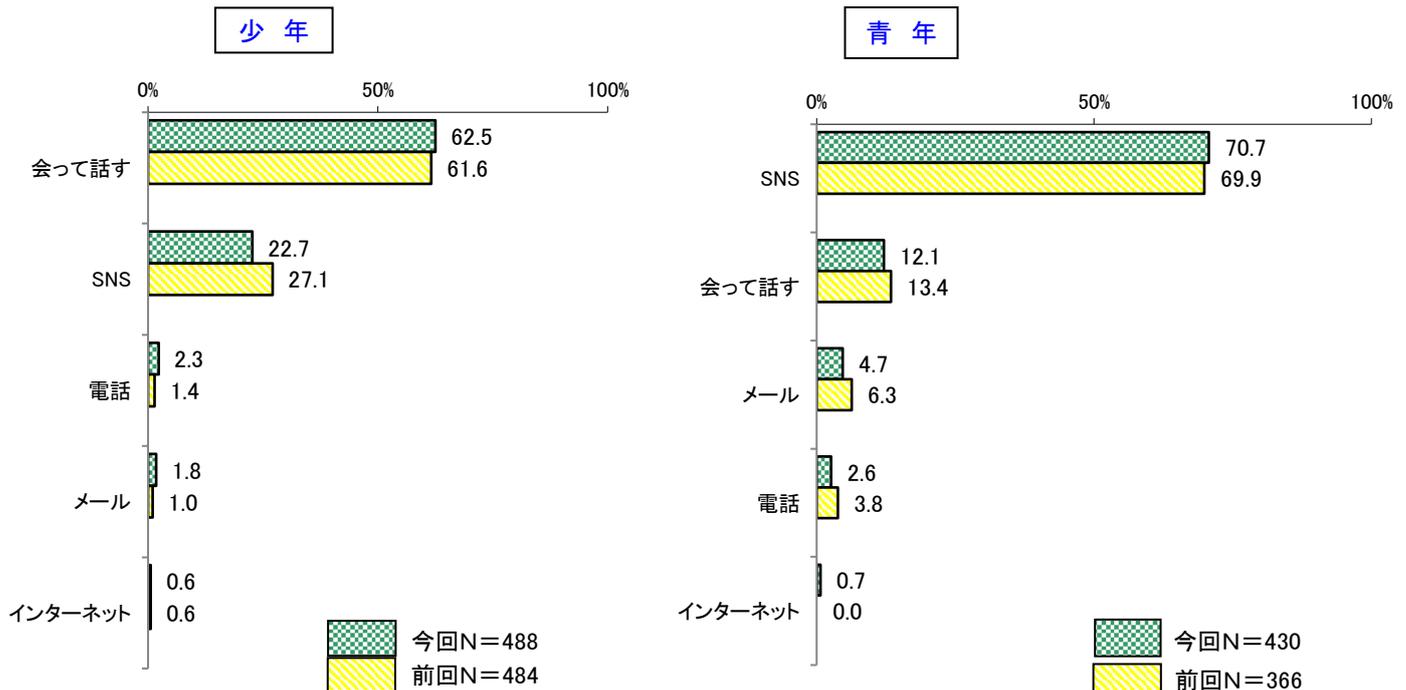
少年、青年ともに、「友達や仲間といるとき」「家族といる時」と回答した割合が多くなっています。



2 友達とコミュニケーションをとる方法

◎ 少年は「会って話す」、青年は「SNS」でコミュニケーションをとっています。

友達とのコミュニケーションの方法は、少年は「会って話す」、青年は「SNS」と回答した割合が最も多くなっています。前回調査と比較すると少年の「SNS」と回答した割合が4.4ポイント減少しています。

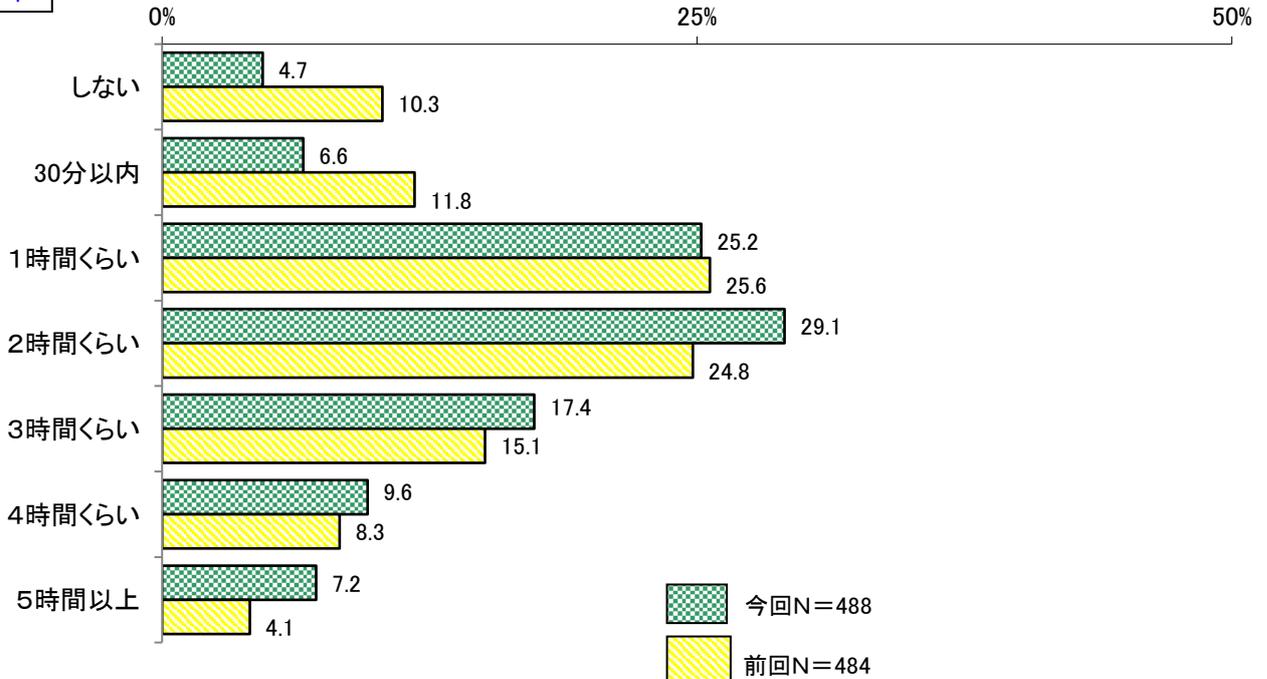


3 インターネットの利用状況

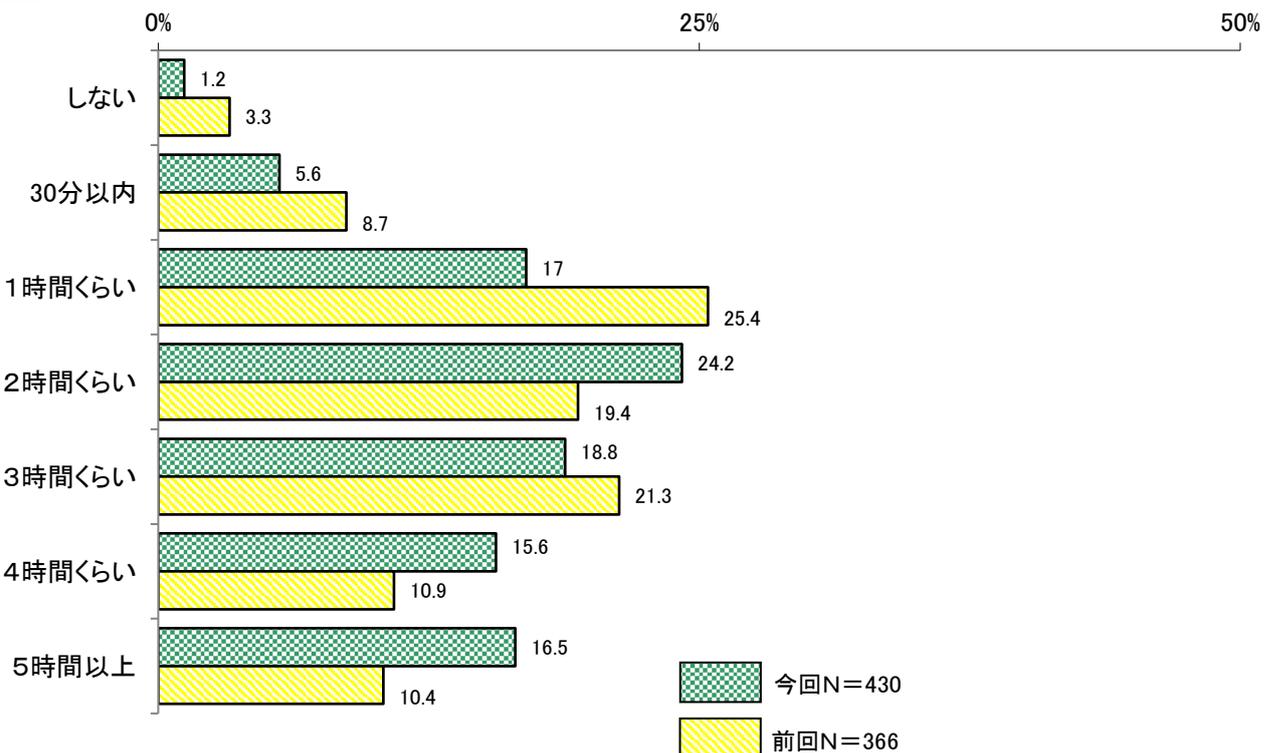
◎ 青少年は1日「2時間くらい」の利用が最も多くなっています。

1日にインターネットやメール（携帯電話、スマートフォンを含む）をする時間は、少年、青年ともに「2時間くらい」と回答した割合が最も多くなっています。前回調査と比べると少年、青年ともに「4時間以上」「5時間以上」と回答した割合が増加しています。

少年



青年

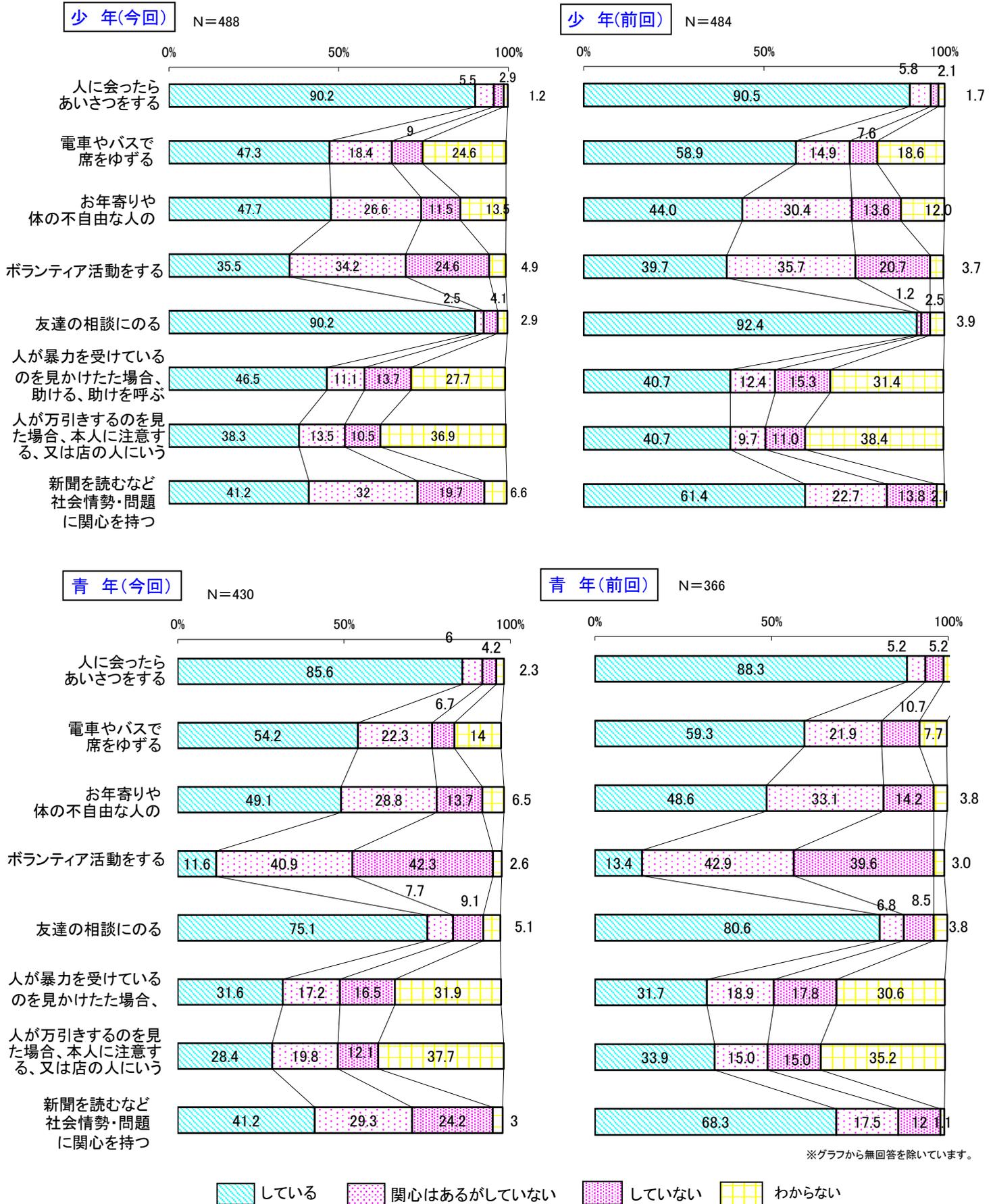


VI 青少年の健全育成

1 青少年の行動

◎ 多くの青少年が、人に会ったらあいさつをしています。

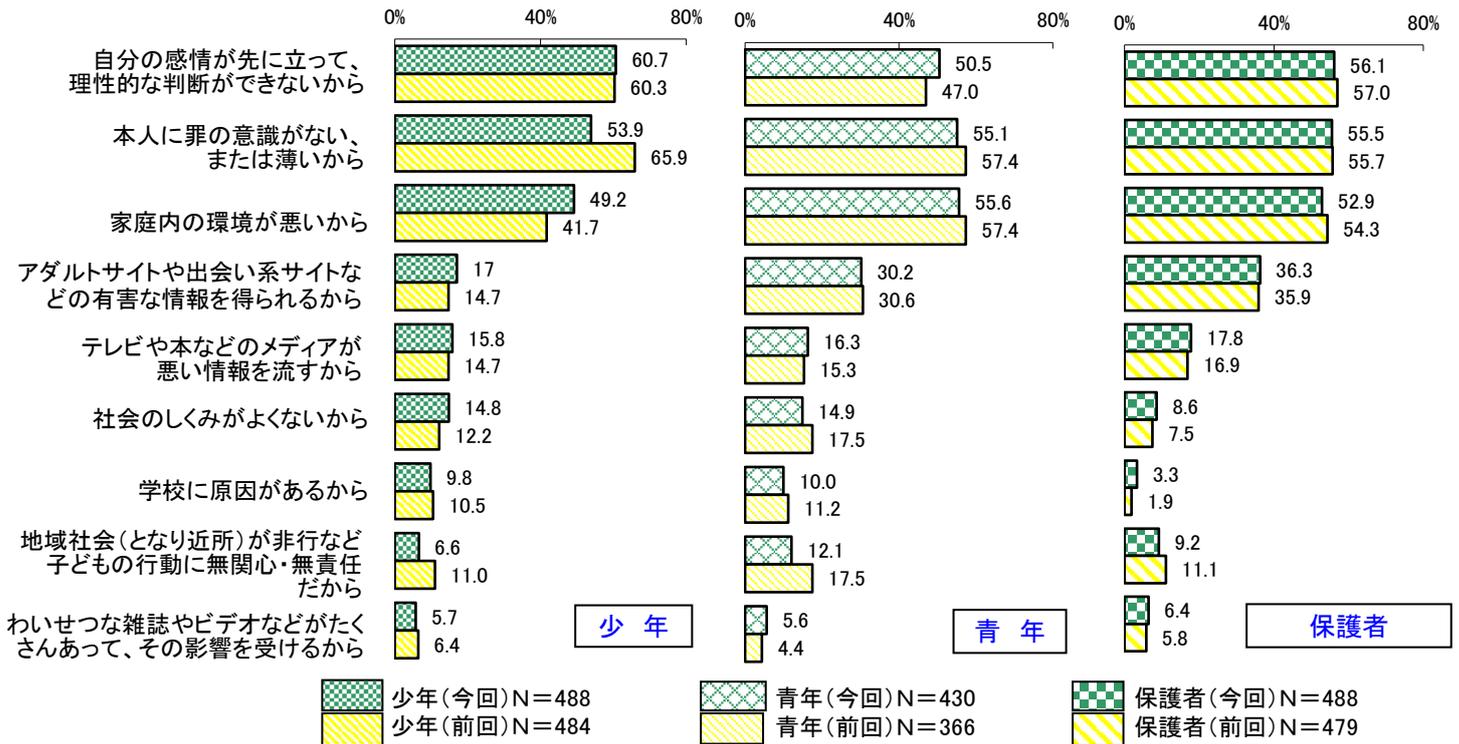
少年、青年とも、「人に会ったらあいさつをする」「友達の相談にのる」と回答した割合が多くなっています。青年の「ボランティア活動をする」と回答した割合が少なくなっています。



2 中学生・高校生の非行の原因・理由(複数回答)

◎ 中学生・高校生の非行は「理性的判断・罪の意識の欠如」「家庭内環境」が原因と考えています。

中学生・高校生の非行の原因・理由として、少年、青年、保護者とも、「自分の感情が先に立って、理性的な判断ができないから」「本人に罪の意識がないから」「家庭内の環境が悪いから」と回答した割合が多くなっています。

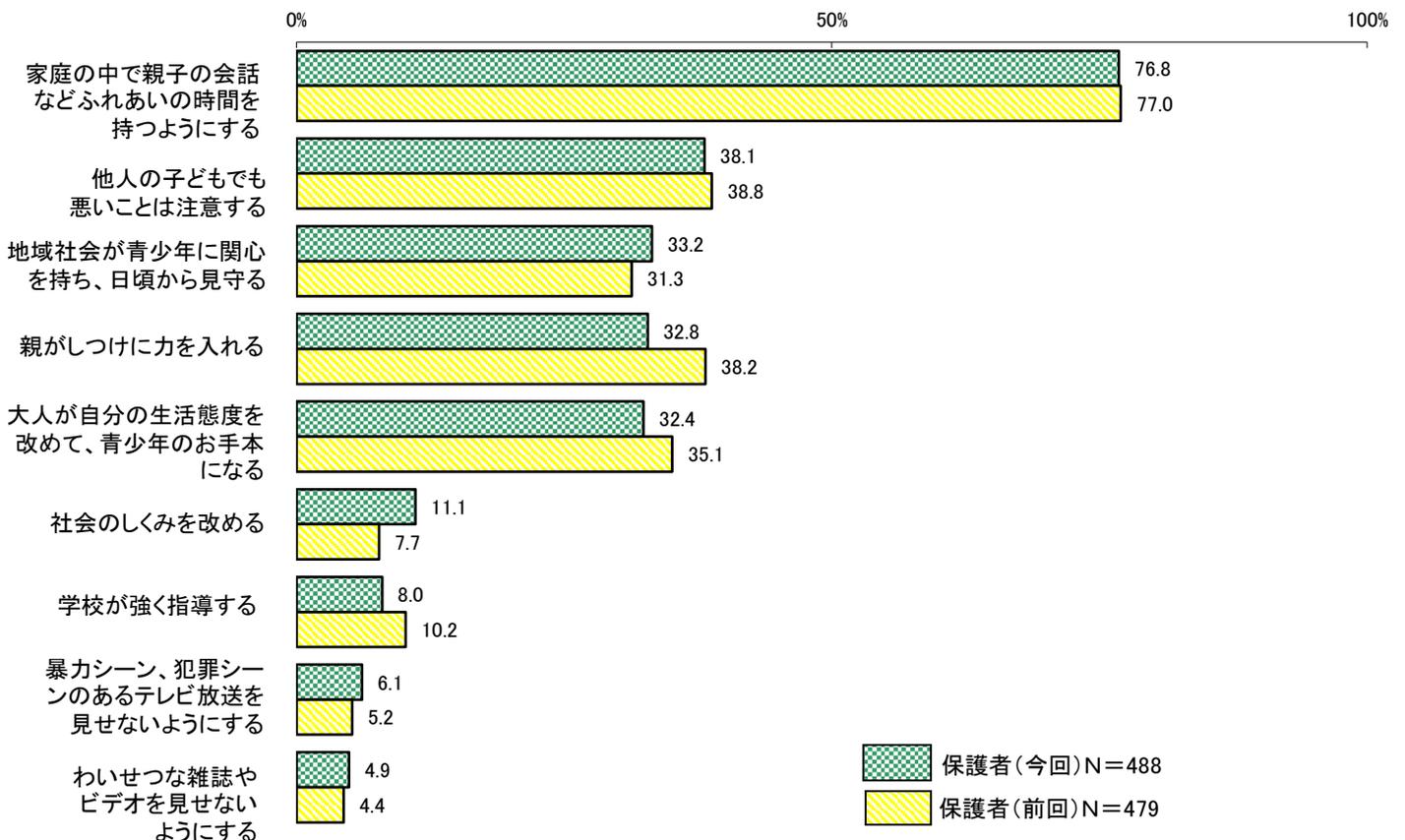


※グラフから「わからない」、「その他」及び無回答を除いています。

3 保護者が考える非行防止策(複数回答)

◎ 家族のふれあいが非行を防ぐと考えています。

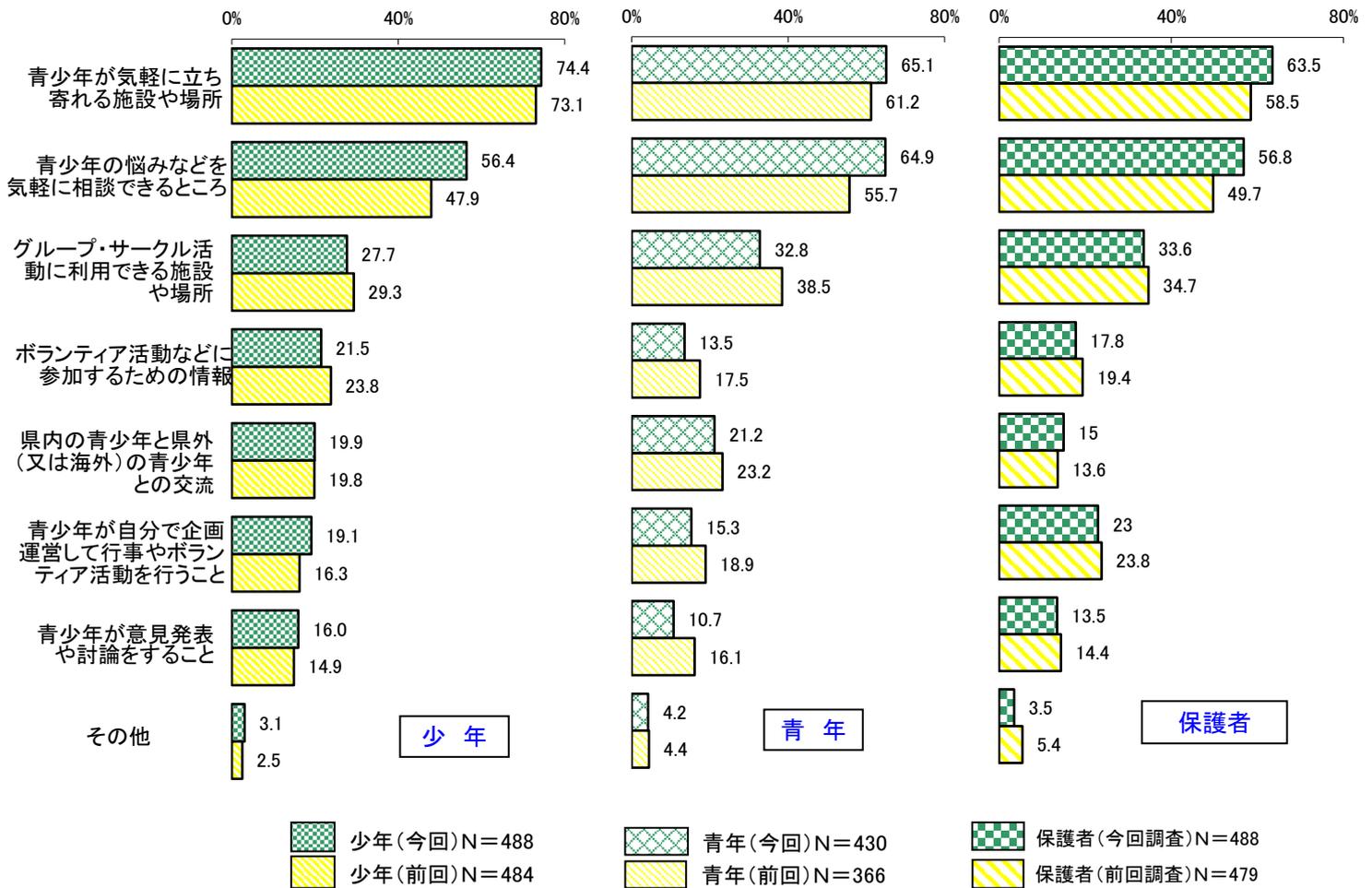
保護者が考える非行防止策は、「家庭の中で親子の会話などふれあいの時間を持つようにする」と回答した割合が最も多くなっています。前回調査と比較すると、「親がしつけに力を入れる」が5.4ポイント減少し、「社会のしくみを改める」が3.4ポイント増加しています。



4 青少年に必要なもの(複数回答)

◎ 「青少年が気軽に立ち寄れる施設や場所」が過半数を超えています。

少年、青年、保護者とも、「青少年が気軽に立ち寄れる施設や場所」と回答した割合が6割を超え最も多くなっています。
 前回調査と比較して、少年、青年、保護者とも「青少年の悩みなどを気軽に相談できる場所」と回答した割合が増加しています。



※グラフから無回答を除いています。

令和3年度 青少年の健全育成に関する意識調査結果

岩手県環境生活部 若者女性協働推進室

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1

電話019-629-5337

令和4年5月

ホームページアクセス